

## ～ 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の役割と活動 ～

私が看護学生だった20年以上前、実習で脳神経疾患の患者を担当しました。その時に、初めて高次脳機能障害の患者に出会い、関わりに悩みながらも「その人らしさ」を大事にした関わりのお大切さについて教えていただきました。それ以来、脳神経看護に興味を持ち、就職も脳神経に決めました。病棟編成により他診療科の経験を重ねる中で、「脳神経領域で今後もやっていきたい」「もっと脳神経患者への理解を深めたい」と強く思うようになり、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師を取得しました。



ストロークケアチーム

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の役割は、急性期の重篤化回避や生活の再構築の支援などがあります。私は特に、脳のダメージによりさまざまな後遺症を呈した患者・家族の支えとなることが第一だと考えています。突然生じた麻痺などの症状により生活、人生が一変してしまった患者の気持ちに寄り添い、患者に関わる多職種で患者のわずかな変化を共有し、患者の可能性を信じ、脳卒中後の生活も患者にとってより良いものになるよう心がけています。

認定看護師となってからは、ICU、外来、病棟で急性期から生活期まで幅広く患者と関わり、現在はSCUで勤務しています。当院のSCUは2018年11月に開設されました。SCU立ち上げ当初より院内脳卒中体制の構築にも取り組んでいます。当院に限らず、院内脳卒中の対応は救急搬送症例よりも診断治療に遅れがみられると報告があります。脳卒中は高血圧や糖尿病、肥満などの他、不整脈、がん疾患の患者などにも発症リスクがあり、入院中の患者はこれらの疾患を持ち合わせていることが少なくなく、院内発症はどの病棟でも起こり得ます。入院中の患者が脳卒中になった際に、早急に適切な診断と治療を行うことで、後遺症を最小限にすることにつながります。院内発症脳卒中への対応がさらに早急に行えるよう、今後も職員全体への周知活動に力を入れていきたいと考えています。

また、昨年度より「脳卒中相談窓口」が院内に開設されました。当院に入院された脳卒中患者とその家族にとって、入院中だけでなく在宅生活で抱える不安を相談する場として利用していただけるものです。退院後の相談件数はまだ多くはありません。外来診察時に看護師が生活状況を伺ったり、再発予防指導を行うなど、今後は外来との連携や継続看護にも取り組んでいきたいと考えています。